

23年度の課題

- * 圏域ごとの高次脳機能障害者の支援には、その圏域の医療機関の関与も必要である。そのため、外来でリハビリテーションを実施し、圏域の支援コーディネーターおよび地域支援協力機関と連携することが可能な医療機関に、協力医療機関・協力医を依頼することを考えている。各圏域の協力医療機関の候補を絞り、指定作業を具体的に進めていく。
- * 圏域内で支援をスムーズに行うためには、その圏域内の関係機関が連携することが必要である。協力医療機関・協力医の指定がされた後は、協力医療機関・地域支援協力機関・行政機関の関係者が集まり、情報交換や研修を行う場を設置することを検討していく。
- * 圏域相談支援コーディネーター養成事業における研修内容を検討する。次年度は支援拠点機関以外に関係機関の協力も求め、相談場面・作業場面等での研修を取り入れていくようにする。
- * 支援体制の変化に伴い、地域の身近な機関を利用できることを県民に周知する必要がある。協力機関の記載も含め、現在の普及啓発用リーフレットの改訂も検討していく。

三重県

支援拠点機関名 三重県身体障害者総合福祉センター

支援コーディネーター（職種） 相談支援専門員2名（内1名は施設のケースワーカーを兼務）

当事者／家族からの直接相談のべ件数（22年度：平成22年4月～平成23年2月）

電話	305件
来院／来所	396件
メール・書簡	71件
その他（訪問・出張・同行等）	222件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（22年度：平成22年4月～平成23年2月）

電話	380件
来院／来所	16件
メール・書簡	44件
その他（訪問・出張・同行等）	174件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

- H22/6/5 高次脳機能障害者地域支援セミナー 92名
 - H22/7/23 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会 16名
 - H22/9/25 厚生労働科学研究東海ブロック会議 32名
 - H23/2/19 高次脳機能障害者地域支援セミナー 60名
- 高次脳機能障害ケースカンファレンス：当センターの会議に拠点病院医師参加（計8回×16名）

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

- H22/6/24 三重県鈴鹿市福祉関係職員連絡会（コーディネーター講師）
 - H22/6/27 三重県医療ソーシャルワーカー協会初任者研修（コーディネーター講師）
 - H22/6/29 支援コーディネーター全国会議（コーディネーター協力）
 - H22/7/14 三重県相談従事者初任者研修（コーディネーター講師）
 - H22/8/24 三重県相談従事者現任者研修（コーディネーター講師）
 - H22/9/25 高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会（コーディネーター講師・協力）
 - H22/11/27 三重県医療ソーシャルワーカー協会研修（コーディネーター講師）
 - H23/1/29 22年度職業リハビリテーション実践セミナー（コーディネーター講師）
- 家族定例会：コーディネーター対応（計9回）
- その他施設・学校での勉強会等に協力

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）
パンフレット・冊子を作成し配布（セミナー開催時及び案内時に各関係機関等へ配布）

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

診断評価・リハビリテーションなど

三重県身体障害者総合福祉センターにて障害者自立支援法によるリハビリテーションを実施

その他の支援活動

東海ブロック連絡協議会

○東海ブロック連絡協議会の開催

開催日：平成22年9月25日（土）

会 場：アスト津（三重県津市羽所町）

内 容：第一部 軽度外傷性脳損傷について

篠田淳先生

（木沢記念病院副院長・中部療護センターセンター長）

第二部 軽度外傷性脳損傷の現状について

（各県、事例と基本的な支援の流れについて発表）

第三部 軽度外傷性脳損傷に対する支援の現状と課題（学識経験者からの意見等）

愛知県

支援拠点機関＝名古屋市総合リハビリテーションセンター

支援コーディネーター＝3名（専任）

1. 支援拠点機関実績

(1) 脳損傷者新患数

単位＝人

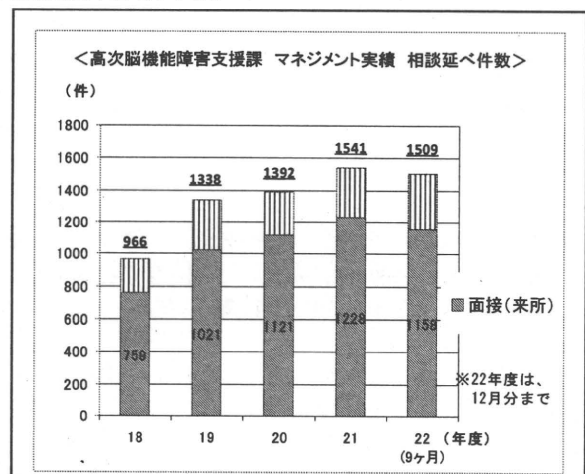
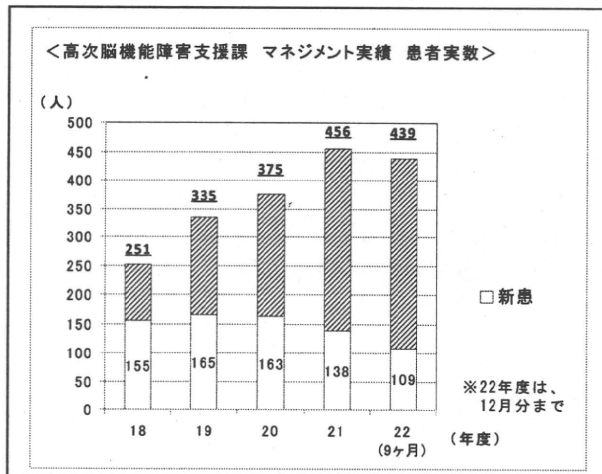
年度	疾患	脳外傷	低酸素脳症	脳炎	くも膜下出血	脳出血	脳梗塞	脳腫瘍	その他	合計
18		64	5	12	34	101	166	3	18	403
19		110	10	17	26	92	130	14	11	410
20		106	11	11	35	102	128	10	15	418
21		85	6	8	42	111	177	9	13	451
	(内:CVA連携 ^ア)				(4)	(29)	(78)			(111)
22(～12月)		71	6	3	25	65	107	8	12	297
	(内:CVA連携 ^ア)				(7)	(28)	(70)			(105)

(2) 支援コーディネーター(高次脳機能障害支援課)マネジメント実績

単位＝人

年度	実数(うち新患数)	延べ			
		計	面接(来所)	連絡	訪問
18	251(155)	966	759	173	34
19	335(165)	1338	1021	275	42
20	375(163)	1392	1121	246	25
21	456(138)	1541	1228	291	22
22(～12月)	439(109)	1509	1158	313	38

注) 高次脳機能障害支援課は主に身体障害がほとんどない高次脳機能障害者に対応



<H22年度(～12月)マネジメント内訳>

単位＝上段：人/下段：%

計	医療	訓練	就業	就学	施設	在宅	情報	その他
1509	189	275	269	76	61	323	310	6
100.0	12.5	18.2	17.8	5.1	4.0	21.4	20.6	0.4

・ 医療(受診相談、等)の割合が増加(18年度＝4.8%)、情報(精神障害者手帳や障害年金<精神>関係の相談、等)も増加(18年度＝13.2%)している。なお、就業関係は就労支援課が主に担当。

(3) 支援コーディネーター(高次脳機能障害支援課)機関・施設連携実績

単位＝件

年度	実数	延べ			
		計	来所	連絡	訪問
18	184	706	110	495	101
19	188	717	114	517	86
20	196	589	105	421	63
21	209	588	96	463	29
22(～12月)	166	540	102	373	65

注) 研修会参加機関等は含まず

<H22年度(～12月)連携内訳>

単位=上段:件/下段:%

計	支援センター・相談機関	施設	医療機関	教育関係	職場関係	家族会	その他
540	130	106	96	23	28	48	109
100.0	24.1	19.6	17.8	4.2	5.2	8.9	20.2

- ・地域での支援の必要性から支援機関との連携(18年度=相談機関+施設 39.1%)が増加傾向、高次脳の周知により医療機関からの相談等(18年度=12.6%)も増加。就業関係は(職場関係)は就労支援課が主に担当している。

(4) 自立支援法による訓練

◇生活支援課(“生活”訓練—主に機能訓練+生活訓練)実績

年度	入所者			退所者
	計(うち身障手帳未所持)	うちTBI	うちCVA	
18	115 (14)	25	66	78
19	106 (16)	18	57	67
20	115 (10)	27	68	70
21	129 (23)	18	69	78
22(～12月)	105 (24)	18	69	61

◇就労支援課(就労移行支援)実績 単位:人

利用者	退所者
計(うち身障手帳未所持)	計(うち身障手帳未所持/うち一般就労(同))
121 (40)	71 (30) / 45 (24)
103 (43)	75 (27) / 48 (18)
98 (50)	57 (24) / 35 (21)
112 (66)	69 (35) / 43 (25)
105 (65)	59 (40) / 38 (27)

注)生活支援課の身体障害者手帳未所持者の入所はH14年度(H15.2)から開始、現在は生活訓練11名、就労移行支援10名枠

2. 高次脳機能障害支援普及事業関係

(1) 主催した会合・対象者・参加人数

- ① 愛知県高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連携調整委員会
 - ・H22/09/17 第1回(通産8回) 委員(拠点機関・愛知県・名古屋市・関係機関・家族会・学識経験者) 20名
 - ・H22/03/16 第2回(通産9回) 委員(拠点機関・愛知県・名古屋市・関係機関・家族会・学識経験者) 20名
- ② 講習会
 - ・H22/10/16 脳外傷リハビリテーション講習会 家族・当事者・支援者・一般市民等 参加344名
- ③ 生活適応援助者(生活版ジョブコーチ)養成研修=地域で高次脳機能障害者に生活訓練的な関わり(コーチング)をなう生活版ジョブコーチを養成、そのシステムを作ることを目的とする(H21～23年度 損保協会助成事業)
 - ・H22/9/10 試行および検討 家族会・支援機関等 参加9団体(県内4、県外5)
 - ・H23/2.17-18 試行および検討(2回を踏まえて) 家族会・支援機関等 参加10団体(県内5、県外5)
- ④ その他
 - ・H22/8/11、12/8 名古屋市ハ高次脳機能障害見学・研修会 行政関係中心 参加計58機関(91名)
 - ・就学支援の親の会開催、当センター関連部署(障害者サポートセンター、介護保険関係)研修会講師
 - ・外部機関見学(～H23.2) 11機関・病院

(2) 主催はしていないが、協力・出席した会合

① 愛知県内(～H23.2)

<行政関係>

- ・H22/9/9 愛知県相談支援従事者初任者研修 参加530名
- ・H22/5/21 名古屋市障害福祉事務担当者会 参加30名
- ・H22/6.23,11/24 豊田市高次脳機能障害者相談会(2回) 参加計40名
- ・H22/9/26 豊田市社協稲武支所通所介護関係者研修「高次脳機能障害の理解と対応」 参加40名
- ・H23/2/5 豊田市平成22年度高次脳機能障がい関係職員向け研修会 参加40名
- ・H23/2/24 半田市自立支援協議会「高次脳機能障がいの正しい理解と支援方法」 参加18名

<家族会関係>

- ・H22/6/12 くも膜下出血家族会くるみ・笑い太鼓勉強会「いっしょにがんばる訓練課題」 参加10名
- ・H22/9/20,10/31 NPO法人笑い太鼓「なるほど!なっとく!高次脳機能障害」/名古屋(2回) 参加計117名
- ・H23/1.23.3/27 NPO法人みずほ「高次脳機能障害を知るために」/江南市,半田市 参加150名(江南)
- ・H23/1/22 サークルフレンズ相談会 参加20名
- ・H23/2/20 高次脳機能障害者支援のための研修会「失語症の理解を求めて」 参加104名

<その他>

- ・H22/11/18-19 身体障害者リハビリテーション研究集会2010(全国大会/名古屋)—高次脳部門 参加189名
- ・H22/11/14 高次脳機能障害～当院における評価と訓練(県言語聴覚士会) 参加120名
- ・H23/1/30 (社)日本医療社会事業協会「交通事故被害者生活支援教育研修」(愛知) 参加94名
- ・H22/9/1 認定看護師研修講師 参加10名

② 愛知県外

- ・国立障害者リハビリテーションセンター、障害者職業総合センター関係
- ・脳外傷リハビリテーション講習会（沖縄）、京都市高次脳機能障害者医療関係者等研修会、当事者団体関係、等

(3) 家族会関係

① 家族会運営施設の名古屋リハ患者の利用実績（22年度／～12月）

- ・みかんやま作業所（運営母体：NPO 法人脳外傷友の会みずほ） 45名
- ・サポートセンター笑い太鼓（同：NPO 法人高次脳機能障害者支援笑い太鼓） 29名
- ・高次脳機能障害者支援センター（同：NPO 法人高次脳機能障害者支援笑い太鼓） 40名
- ・高次脳機能障害者支援センター笑い太鼓岡崎（同：NPO 法人高次脳機能障害者支援笑い太鼓） 7名

② 名古屋リハ内での家族会－家族相談会の実施（H22.7から毎週午後1回）

③ 愛知脳損傷協議会（ABIA）リーフレット作成

(4) その他

① 調査協力

- ・認知リハを受けた患者の社会的帰結（厚生労働科学研究）
- ・小児期受傷・発症の高次脳機能障害児者の支援実態調査（厚生労働科学研究）
- ・名古屋市障害者基礎調査（高次脳機能障害者分）－第3期名古屋市障害福祉計画基礎調査

② ほか

- ・愛知県障害福祉啓発キャンペーン（緊急雇用創出事業基金事業）－県内主要駅で紹介チラシ3-4万部配布（ティッシュ同封）
- ・名古屋市生活支援センター連絡会（名古屋市主催）への参加（1回／2～3ヶ月）

愛知脳損傷協議会（ABIA）関連団体 活動報告（支援拠点機関との重複有）

1. 高次脳機能障害を考えるサークル・フレンズ

- ① 広報活動＝各種イベント時の広報物（8回）配布、関連機関へのリーフレット・ポスター等配布、広報紙「フレンズ便り」（年5回発行・1回700部）の発行と配布、ほか
- ② 家族勉強会＝5年前から実施、今年度は年6回ペースで行った

2. NPO法人脳外傷友の会みずほ

① 開催した講演会等

- ・H22/5/19 総会及び講演会 H22/10/16脳外傷リハビリテーション講習会
- ・H23/1/23 「高次脳機能障害を知るために」（江南市） ・H23/2/20 「失語症研修会」（刈谷市）
- ・H23/3/27 「高次脳機能障害を知るために」（半田市） ・その他多数に参加

② ほか

- ・みかん山作業所の運営
- ・運営委員会毎月1回開催 会報誌年4回発行、生活サポート訓練（毎月第2土曜日）実施、家族相談会の開催（H22.7～／毎週木曜日PM）、地区会、バザー、当事者企画G、妻の会、キッズの会への支援

3. NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」

(1) 愛知脳損傷協議会（ABIA）関係

① 開催した講演会＝なるほど！なっとく！！高次脳機能障害

- ・H22/9/20, 10/31 高次脳機能障害をどのようにとらえ、どのように理解したらよいのか
- ・H22/12/5 いきいき暮らす視点、始点、支点～地域で進めるあきらめない回復支援～
- ・H23/2/12, 2/13 わかり合う～医療と家族と支援者と～（名古屋、豊橋）

② その他＝リーフレット「高次脳機能障害理解のために」作成、家族相談会（みずほが開始）のABIAとしての展開

(2) <豊橋> 高次脳機能障害者支援センター／多機能型（就労移行、就労継続B、生活介護）

- ・登録利用者47名（脳外傷17名、くも膜下出血9名、ほか脳血管障害7名、低酸素3名、その他11名）

(3) <名古屋> サポートセンター笑い太鼓／名古屋市地域活動支援事業

- ・登録利用者32名（脳外傷7名、くも膜下出血11名、ほか脳血管障害9名、低酸素4名、もやもや病1名）

(4) <岡崎> 高次脳機能障害者支援センター笑い太鼓岡崎／就労継続B

- ・登録利用者29名（脳外傷9名、くも膜下出血3名、ほか脳血管障害7名、低酸素1名、脳腫瘍3名、ほか6名）

(5) <豊橋> 笑い太鼓デイサービスセンター／通所介護、介護予防通所介護

厚生労働科学研究費補助金
こころの健康科学研究事業
平成22年度 総括研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究
分担研究者 野村忠雄
高志リハビリテーション病院病院長

研究要旨

北陸ブロックでは、富山県、石川県、福井県の3県に設置された地方支援拠点機関および地方自治体との北陸ブロック会議を開催し、各県の高次脳機能障害支援普及事業の円滑なる実施を図った。

A. 研究目的

北陸ブロックにおける高次脳機能障害者への専門的な相談支援のあり方、関係機関との連携のあり方など支援ネットワークの構築および円滑な運用を行った。また「行動障害の著しい事例について」各県から事例検討を行った。

B. 研究方法

1. 北陸ブロック会議の開催：富山県高次脳機能障害支援センター(富山県高志リハビリテーション病院)を中心として、北陸ブロック会議を開催し、北陸3県での高次脳機能障害支援ネットワークを構築する。
2. 各県での取り組みに対して助言・支援を行う。
3. 北陸ブロックにおける行動障害の著しい事例について検討を行う。

(倫理面での配慮)

事例検討では調査対象者の個人情報等に係わるプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分配慮した。

C. 研究結果

1. 平成22年度北陸ブロック会議の開催

日程：平成22年7月31日(土) 石川県リハビリテーションセンター4F研修室

出席者：行政関係3名、各県支援センター17名、助言者2名 計22名

1) 現状報告

各県担当者より、取り組みの現状と今年度の予定等について報告があり、意見交換を行った。

2) 事例検討会

「行動障害の著しい事例について」北陸3県より事例提供し、静岡英和学院大学 人間社会学部地域福祉学科准教授 白山靖彦先生から助言をいただき、意見交換を行った。

D. 考察

平成22年度の活動の特徴は次のように思われる。

富山県では、①小児の高次脳機能障害についての啓発を一般市民および支援学校関係の教諭に行った。②就労・生活支援ネットワーク会議を立ち上げ、県内14施設・行政・家族の会が参加し、支援のためのパスの作成にあたっている。

石川県では、センター内での生活支援教室を開催し、1年間で延べ738名の参加を得ている。

福井県では、相談・支援件数が増加し、診療・リハ体制を整備・充実させた。神経心理学的検査の県内標準化を目指して検査用具のレンタルを開始した。

各県の事業報告を参考に今後とも、それぞれの県で再度活動や支援の見直しや取り入れていく。また、普及啓発の重要性を再認識し、医療機関や地域・福祉機関での高次脳機能障害に関する認識を広め、高次脳機能障害者の生活と就労面での支援を一連の流れで継続して行えるように今後も検討していく。また、このような支援を繋ぐだけでなく、関わり続けるためにも、専門的な人員配置の必要性を行政に求めていくことも今後の課題とする。

平成22年度高次脳機能障害者支援事業の実施実績

県名	富山県 (報告：2月末実績)	石川県 (報告：2月末実績)	福井県 (報告：2月末実績)
支援拠点機関名	富山県高次脳機能障害支援センター (富山県高志リハビリテーション病院内) Tel076-438-2233 平成19年1月15日開設	石川県高次脳機能障害相談・支援センター(石川県リハビリテーションセンター内) Tel076-266-2188 平成19年4月15日開設	福井県高次脳機能障害支援センター(福井総合クリニック内) Tel0776-21-1300 平成20年5月15日開設
支援コーナー(職種)	医師 臨床心理士 作業療法士 ソーシャルワーカー 福祉施設(更生・授産・療護)職員	保健師・心理士	言語聴覚士
当事者・家族からの直接相談(延べ件数)	電話：172件 来院/来所：279件 メール・書簡：0件 その他(訪問・出張・同行等)：4件 合計455件	電話：179件 来院/来所：144件 メール・書簡：7件 その他(訪問・出張・同行等)：17件 合計347件	電話：876件 来院/来所：821件 メール・書簡：65件 その他(訪問・出張・同行等)：228件 合計1990件
機関・施設等からの間接相談(延べ件数)	電話：131件 来院/来所：21件 メール・書簡：0件 その他(訪問・出張・同行等)：1件 合計153件	電話：209件 来院/来所：50件 メール・書簡：6件 その他(訪問・出張・同行等)：10件 合計275件	電話：846件 来院/来所：41件 メール・書簡：78件 その他(訪問・出張・同行等)：151件 合計1116件
主催した会合・対象者・参加人数(研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会・相談会・ケース会議など)	<ul style="list-style-type: none"> ・家族教室(5回) 対象者：家族・当事者 参加人数：延べ65名 (3月：1回実施予定) ・支援計画策定会議(43回) 対象者：支援センター構成員 参加者人数：延べ382名 ・高次脳機能障害講演会(1回) 対象者：一般・関係機関職員 参加人数：80名 ・高次脳機能障害支援センター運営会議(3回) 対象者：運営委員18名 参加人数：延べ41名 (3月：1回実施予定) ・北陸ブロック連絡協議会(1回) 対象者：北陸三県高次脳機能障害支援事業担当者 参加者人数：22名 ・高次脳機能障害者就労・生活支援ネットワーク会議(2回、打合せ1回) 対象者：就労・生活・福祉・教育・関係機関・行政機関・センター職員・助言者 参加者人数：延べ81名 ・高次脳機能障害支援センター相談支援体制連携調整会議(3月実施予定) 対象者：相談支援体制連携調整会議委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族教室(5回) 対象者：高次脳機能障害者の家族 参加人数：延べ59名 ・生活支援教室(週1回 延べ44回) 対象者：高次脳機能障害者 参加人数：延べ454名 実16名 ・研修会(2回) ① 対象者：医療機関、就労関係機関、市町等 参加人数：40名 ② 対象者：当事者・家族、医療機関、就労関係機関、市町等 参加人数：104名 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害教室(11回) 対象者：家族・当事者 参加人数：111名 ・高次脳機能障害交流会(9回) 対象者：家族・当事者・一般 参加人数：49名 ・高次脳機能障害勉強会(35回) 対象者：新田塚医療福祉センター職員 参加人数：507名 ・高次脳機能障害支援センター運営会議(10回) 参加者：支援センター運営委員 参加人数：101名 ・ケース会議(67回) 参加者：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等 ・高次脳機能障害関係者研修(2月実施：3回) 対象者：医療・福祉・行政等関係者 参加者：89名

<p>主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）</p>	<p>【講師協力した会合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山圏域支援ネットワーク会議事業説明 ・富山県相談支援従事者研修講義 ・障害者就業・生活支援センター中部北陸ブロック別経験交流会助言・アドバイザー ・障害福祉チャレンジ教室（富山短期大学にて講義） ・自由民主党富山県議会議員会勉強会にて講義 ・富山県東部、西部教育事務所にて小児の高次脳機能障害について講義 ・脳卒中連携合同勉強会講義（3月） <p>【協力した会合・その他の研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ・身体障害者リハビリテーション研究発表 座長 ・平成22年度第1回高岡圏域支援ネットワーク会議 ・平成22年度第1回富山圏域支援ネットワーク会議 ・脳外傷友の会第10回全国大会2010IN奈良 ・平成22年度高次脳機能障害支援普及事業第1・2回支援コーディネーター全国会議 ・平成22年度第1・2回高次脳機能障害支援普及事業支援普及全国連絡協議会 ・平成22年度高次脳機能障害支援普及事業関係職員研修会 ・平成22年度高次脳機能障害専門職研修会 ・平成22年度就業支援基礎研修 ・第1・2回高次脳機能障害のグループ訓練（リハビリ専門家向け講座2010） ・平成22年度障害者就労支援ネットワーク研修会 ・平成22年度高次脳機能障害普及啓発研修会 ・平成23年度福井県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ・平成22年度第2回富山圏域就労支援ネットワーク会議 	<p>【協力した会合・その他研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害支援事業関係職員研修会 ・高次脳機能障害支援普及事業第1・2回支援コーディネーター全国会議 ・第1・2回高次脳機能障害支援普及事業支援普及全国連絡協議会 ・脳外傷友の会第10回全国大会 	<p>【講師協力した会合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県言語聴覚学術集会 ・福井県介護支援専門員協会平成22年度総会 ・坂井地区障害児・者自立支援協議会 平成22年度第1回ケアマネジメント事例検討部会 ・平成22年度相談支援事業者現任研修 ・福井脳卒中県民講座 ・日本海急送株式会社 社内安全衛生講習会 <p>【協力した会合・その他研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ・福井県奥越地区自立支援協議会 ・福井県坂井地区自立支援協議会 ・高次脳機能障害支援普及事業支援普及全国連絡協議会 ・高次脳機能障害支援普及事業支援コーディネーター全国会議
---	--	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・砺波圏域就労移行支援セミナー2010 (2月講演会・3月ワークショップ) ・平成22年度富山地域職業リハビリテーション推進フォーラム ・第3回高次脳機能障害のグループ訓練 (リハビリ専門家向け講座2011) <p>【ケース会議への協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加件数8回 (3月: 2回参加予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議 	<p>【ケース会議への協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議 (外部からの依頼にて34回参加)
<p>VD等の発行や配布)</p> <p>広報・啓発活動(パンフレット・機関誌・ウェブページ・冊子・DVD)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県高次脳機能障害支援センターパンフレット・リーフレットの配布 ・ホームページの掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、ホームページ、センターニュースの発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害チェックリスト配布、使用 ・パンフレット、リーフレット配布 (第2版) ・ホームページ随時更新 ・神経心理検査用具レンタル ・精神障害者保健福祉手帳診断書記載マニュアル改訂 ・支援センターニュース発行 (No. 5~23)
<p>作成)</p> <p>調査・情報収集活動(実態調査・地域支援マップ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害生活実態調査報告書のまとめ ・高次脳機能障害者に対する自動車運転評価について 		<ul style="list-style-type: none"> ・連携機関調査: 支援センターパンフレットへの施設情報依頼し、55施設より希望あり
<p>リハビリテーション・診断評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県高志リハビリテーション病院にて実施 ・診断・評価依頼 38件 ・外来リハビリ (OT、ST、心理) 実数 15件、延べ270件 ・グループ療法 (23回) 実数7件、延べ81件 		<ul style="list-style-type: none"> ・福井総合病院及び福井総合クリニックにて、他の医療機関と連携して実施 ・集団リハビリテーション (月・金: 13:00~14:00 水: 13:30~16:30)
<p>その他の支援活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内ローソンにポスターの掲示 (1ヶ月間実施) ・とやまふれあいフェスティバル掲示 ・相談窓口紹介ガイド (富山市保健所作成冊子) 掲載 ・新聞社の取材対応 ・リハビリソフトの購入・貸出 		<ul style="list-style-type: none"> ・福井県脳外傷友の会「福笑井」 (福井県高次脳機能障害者と家族の会) 運営協力
<p>その他 (学会発表等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第44回日本作業療法学会発表 「右被殻出血により使用行動を呈した一症例」「食事動作の改善を認めた脳梗塞例における情動の安定化と注意改善の関連について」 ・第34回日本高次脳機能障害学会 (旧日本失語症学会) 学術総会 「机上IADL検査で観察された認知症重症度による行動障害の違い」 第28回日本リハビリテーション医学会北陸地方会/生涯教育研修会プログラム 「小児期受傷した外傷性脳損傷者の高次脳機能障害」 第47回日本リハビリテーション医学会学術集会 「富山県における高次脳機能障害の生活実態調査」 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県脳卒中連携協議会発表 ・第28回日本リハビリテーション医学会北陸地方会発表 ・リハビリテーション・ケア合同研究大会2010山形発表 ・第34回高次脳機能障害学会学術総会発表 ・福井県言語聴覚学術集会発表

研究1

平成22年度高次脳機能障害の生活実態調査報告書

富山県高次脳機能障害支援センター

I. 調査の概要

1. 目的

富山県内在住の高次脳機能障害をもつ方の生活状況や社会参加の実態およびニーズを把握し、今後の支援や社会資源等の充実を図るための基礎資料とする。

2. 実施主体

富山県高次脳機能障害支援センター

3. 調査対象

富山県高次脳機能障害支援センター利用者
富山県脳外傷友の会「高志」会員

4. 調査期間

平成21年12月

5. 調査方法

アンケート用紙を郵送し、返信されたものについて集計、分析する。

6. 調査項目

別紙「調査票」のとおり

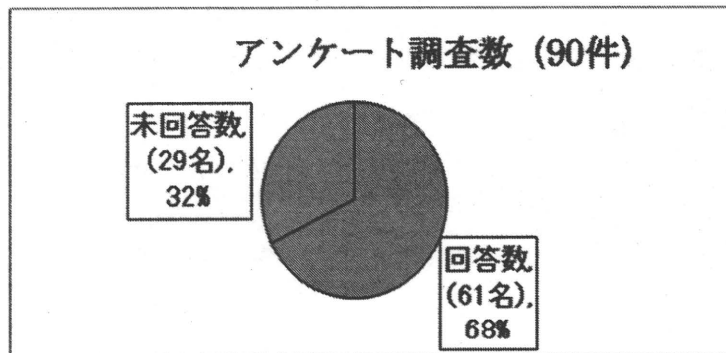
7. 回収率

発送数 90件

回答数 61件

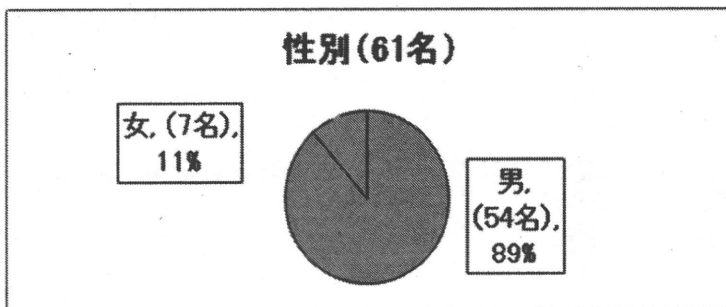
回収率 67.8%

8 結果

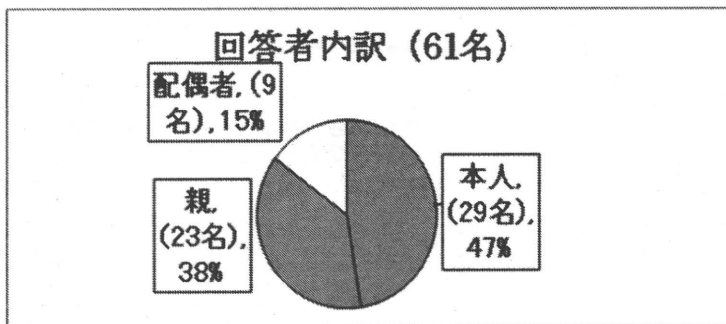


・「アンケート調査数」は、90件発送し、61件回答となった。

回収率は67.8%であった。

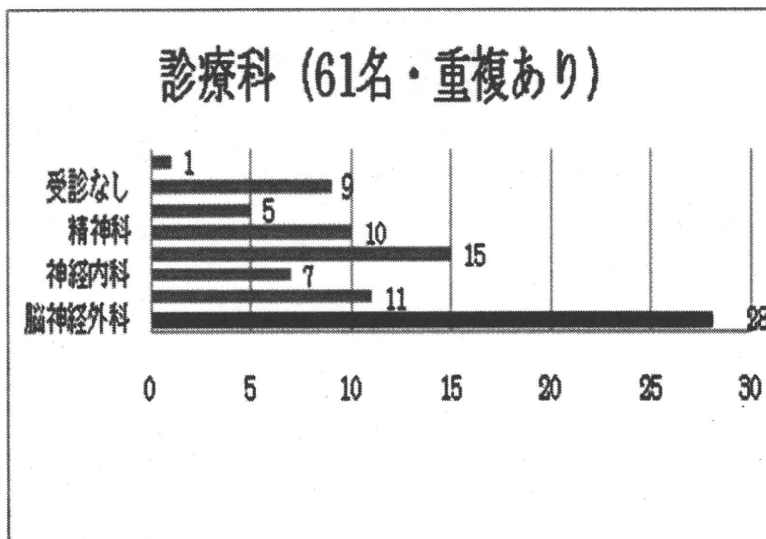


・「性別」は61件中、「男性」が54名、「女性」が7名と「男性」が多かった。



・「回答者の内訳」は、「本人」が29名と多かった。

次いで、「親」が23名、「配偶者」が9名となった。「子」、「兄弟」の回答はなかった。

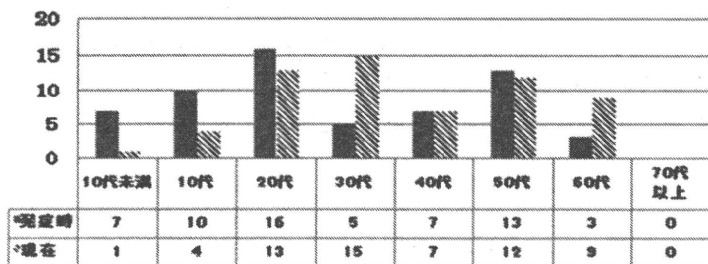


・現在、定期的を受診している「診療科」は「脳神経外科」が28名が多かった。

次いで「リハビリ科」が15名、「内科」が11名、「精神科」が10名、「受診なし」が9名、「神経内科」が7名、「その他」が5名、「未記入」が1名となった。

全体の89%の人が受診している診療科があった。

年齢別(61名)



・「年齢別」では、「発症・受傷時」と「現在」で比較した。

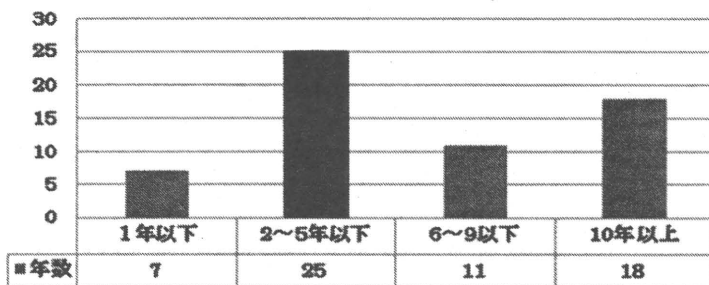
「発症・受傷時」は、「20代」が16名、「50代」が13名と多かった。

次いで「10代」が10名、「10代未満」と「40代」が7名、「60代」が3名、「70代以上」はいなかった。

「現在」は、「20代」が13名、「30代」が15名、「50代」が12名と多かった。

次いで「60代」が9名、「40代」が7名、「10代」が4名、「10代未満」が1名、「70代以上」はい

経過年数(61名)

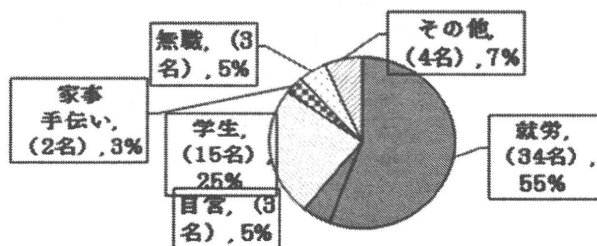


・発症・受傷から現在までの「経過年数」は、「2~5年間」経過している人が25名と多かった。

次いで「10年以上」が18名、「6~9年以下」が11名、「1年以下」が7名となった。

発症・受傷後の経過年数の平均は7.3年となった。

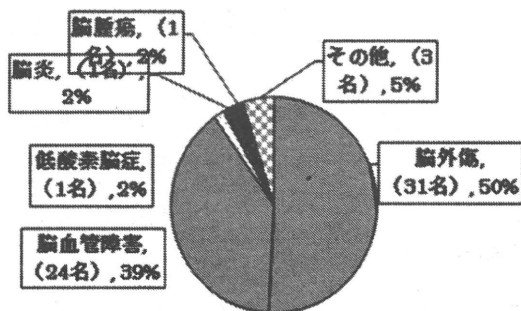
受傷・発症時の社会参加状況(61名)



・「受傷・発症時の社会参加状況」は、「就労していた人」が34名と全体の半数以上となった。

次いで「学生」が15名、「自営」が3名、「無職」が3名、「家事手伝い」が2名、「その他」が4名となった。

傷病名(61名)



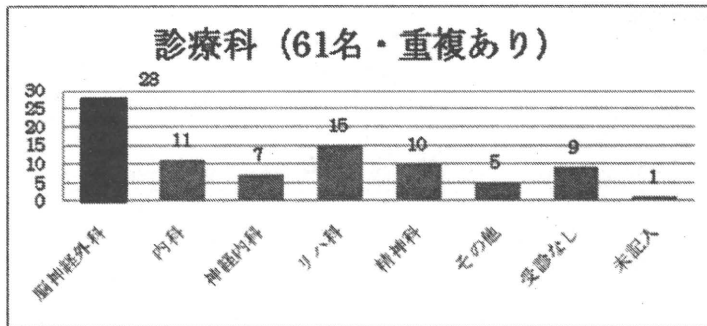
・高次脳機能障害の原因となる「傷病名」は、「脳外傷」が31名と、「脳血管障害」が24名と多かった。

次いで、「低酸素脳症」、「脳炎」、「脳腫瘍」が1名、「その他」が3名となった。

移動機能(61名)



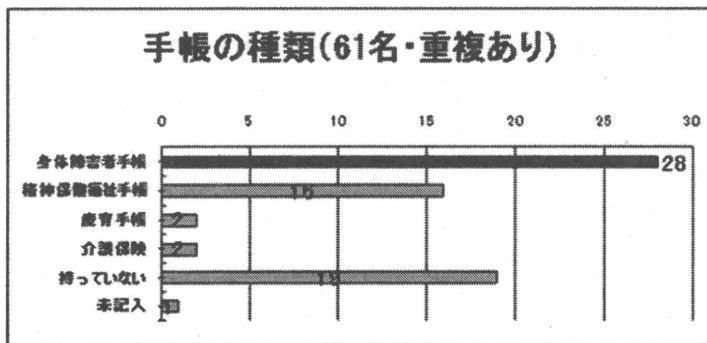
・高次脳機能障害の原因となる「傷病名」は、「脳外傷」が31名と、「脳血管障害」が24名と多かった。次いで、「低酸素脳症」、「脳炎」、「脳腫瘍」が1名、「その他」が3名となった。



・現在、定期的を受診している「診療科」は「脳神経外科」が28名と多かった。

次いで「リハビリ科」が15名、「内科」が11名、「精神科」が10名、「受診なし」が9名、「神経内科」が7名、「その他」が5名、「未記入」が1名となった。

全体の89%の人が受診している診療科があった。
重複回答あり。

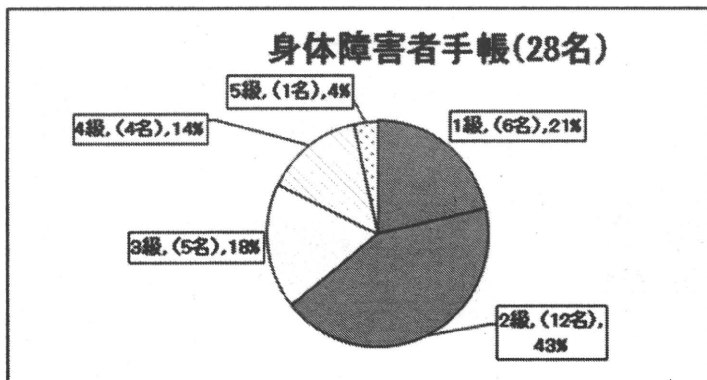


・取得している「手帳の種類」は「身体障害者手帳」が28名と多かった。

次いで、「精神保健福祉手帳」が16名、「療育手帳」が2名、「介護保険」が2名、「未記入」が1名となった。

「手帳を持っていない」人は、19名だった。

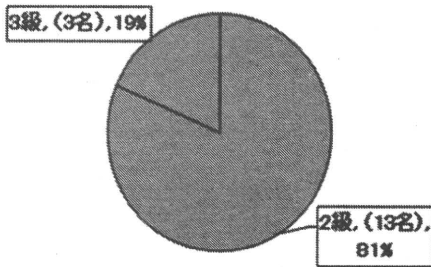
全体の71%の人が手帳を取得していた。
重複で回答あり。



・「身体障害者手帳」取得している人(28名)の「等級」は、「1級」が6名、「2級」が12名と多かった。

次いで「3級」が5名、「4級」が4名、「5級」が1名だった。

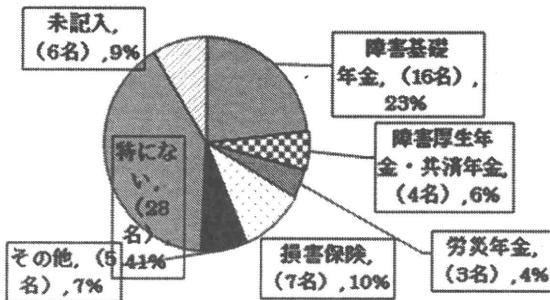
精神保健福祉手帳(16名)



・「精神保健福祉手帳」取得している人(16名)の「等級」は、「2級」が13名が多かった。

次いで「3級」が3名だった。「1級」はいなかった。

受給している経済的保証(61名・重複あり)

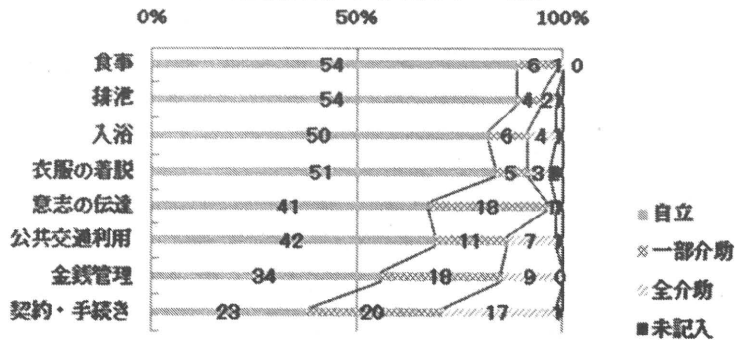


・本人が「受給している経済的保証」(給与は除く)は、「障害基礎年金」が16名が多かった。

次いで、「損害保険」が7名、「未記入」が6名、「障害厚生年金・共済年金」が4名、「労災年金」が3名、「その他」が5名であった。

「特になし」が28名であった。

日常生活の状況(61名)



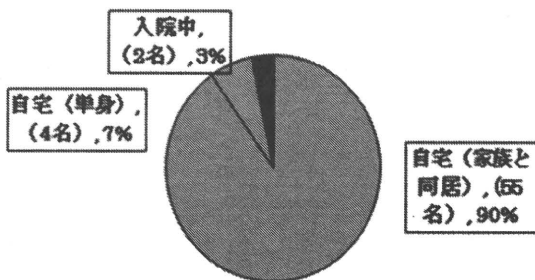
・「日常生活(食事・排泄・入浴・衣服の着脱・意志の伝達・公共交通機関の利用・金銭管理・契約手続き)の状況」について、

自立しているのは、「食事」と「排泄」が54名と多かった。

一部介助が必要なのは、「意志の伝達」と「金銭管理」が18名と多かった。

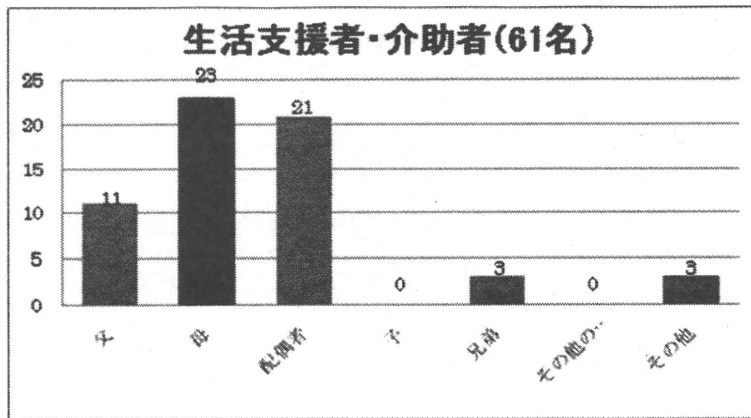
全介助が必要なのは、「契約・手続き」が17名と多かった。

生活場所(61名)



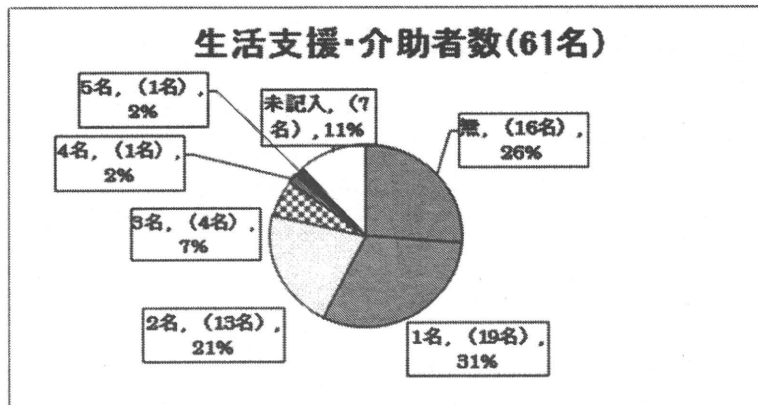
・現在、主の「生活場所」は「自宅で家族と同居」が55名と多かった。

次いで「単身生活」が4名、「入院中」が2名、「入所施設利用者」はいなかった。



・現在の主な「生活支援者、介助者」は「母」が23名、「配偶者」21名が多かった。

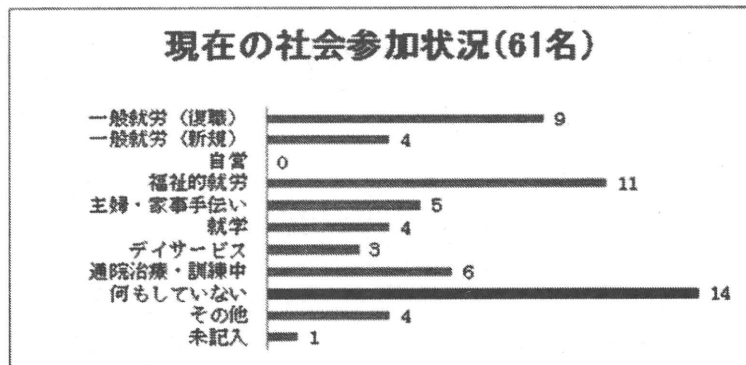
次いで「父」が11名、「兄弟」、「その他」が3名、「子供」と「親戚」はいなかった。



・「生活支援、介助者数」は、「無」が16名と多かった。

次いで、「生活支援、介助がいる人」の中では、「1名いる」が19名、「2名いる」が13名、「3名いる」4名、「4名いる」「5名いる」が1名、「未記入」が7名となった。

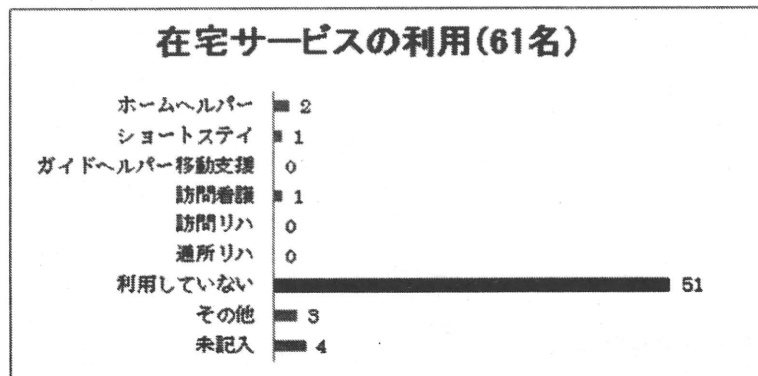
高次脳機能障害者に対する生活支援・介助者は、0~2名と少なかった。



・「現在の社会参加状況」は、「一般就労(復職)・(新規)」が13名、「福祉的就労」が11名で、就労中の人が多かった。

「何もしていない」が14名だった。

次いで「通院治療・訓練中」が6名、「主婦・家事手伝い」が5名、「就学」が4名、「デイサービス」が3名、「未記入」が1名となった。

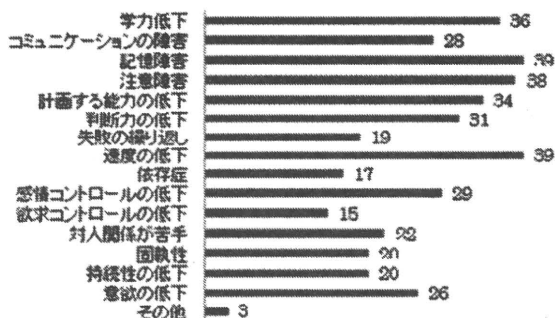


・現在、「在宅サービス」は「利用していない」が51名と多かった。

次いで「ホームヘルパー」が2名、「ショートステイ」、「訪問看護」が1名「その他」が3名、「未記入」が4名となった。

「日常生活の状況」と「移動機能」の自立者が多い事から「在宅サービス」の利用の必要性がないことが考えられた。

高次脳機能障害の症状 (61名・重複あり)

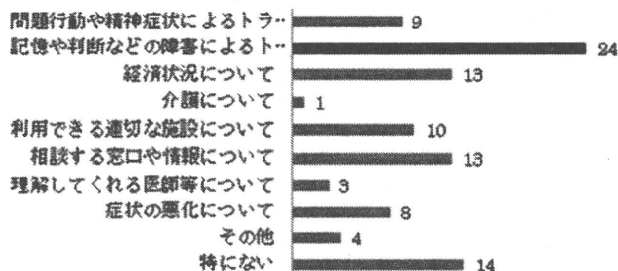


・「高次脳機能障害の症状」について、「記憶障害」と「速度の低下」が39名、「注意障害」が38名と多かった。

次いで、「学力低下」が36名、「計画する能力」が34名、「判断力の低下」が31名、「感情のコントロールの低下」29名、「コミュニケーション障害」28名、「意欲の低下」が26名、「対人関係が苦手」が22名、「固執性」と「持続力の低下」が20名、「失敗の繰り返し」19名、「依存性」17名、「欲求コントロールの低下」が15名、「その他」が3名となった。

重複あり。1人あたりの平均、6.8項目に該当していた。

困っていること(61名・重複あり)



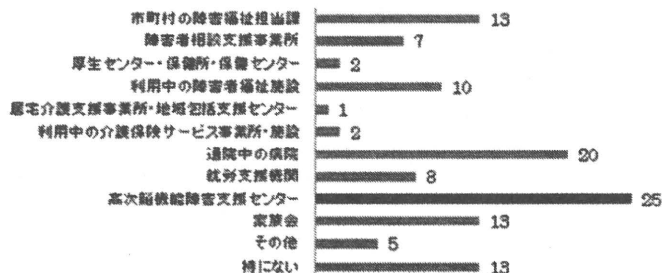
・現在、「困っている事」は、「記憶や判断などの障害によるトラブル」が24名と多かった。

次いで、「経済状況」、「相談できる窓口や情報について」が13名、「移用できる適切な施設について」が10名、「症状の悪化について」が8名、「理解してくれる医師等について」が3名、「介護について」が1名「その他」が4名となった。

「特になし」は、14名だった。

重複あり。

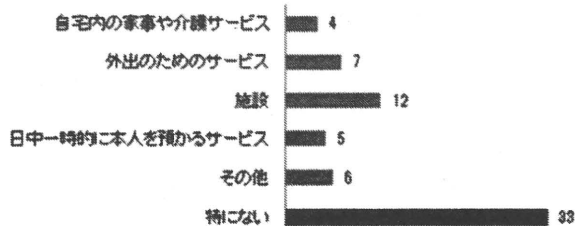
相談できる機関(61名・重複あり)



・生活や社会参加などについて「相談しているまたは必要な時に相談できる機関」は、「高次脳機能障害支援センター」が25名と多かった。

次いで、「通院中の病院」が20名、「市町村の障害福祉課」、「家族会」、「特になし」が13名だった。「利用中の障害福祉施設」が10名、「就労支援機関」が8名、「障害者相談支援事業所」が7名、「厚生センター・保健所・保健センター」、「利用中の介護保険サービス事業所・施設」が2名、「居宅介護支援事業所・地域包括支援センター」が1名、「その他」が5名となった。

必要な支援(61名・重複あり)



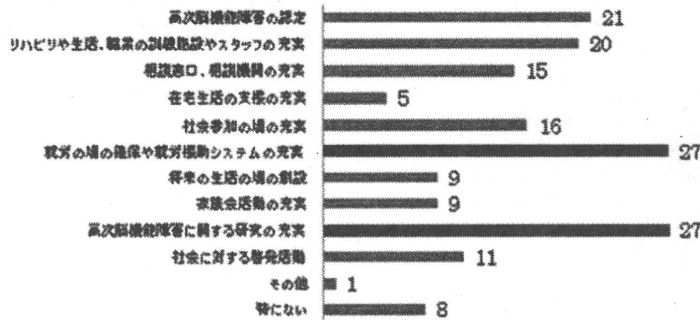
・日中活動や行動で「必要と思われる支援」は、「施設」が12名と多かった。

次いで、「外出のためのサービス」が7名、「日中一時的に本人を預かるサービス」が5名、「自宅内の家事や介護サービス」が4名、「その他」が6名となった。

「特になし」は、33名となった。

重複あり。

今後充実してほしい事 (61名・重複あり)

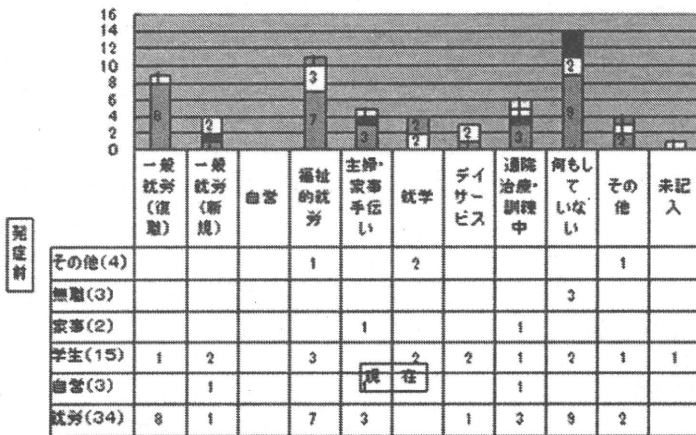


・「今後充実してほしい事」は、「就労の場の確保や就労援助システムの充実」と「高次脳機能障害に関する研究」が27名で多かった。

次いで、「高次脳機能障害の認定」が21名、「リハビリや生活、職業の訓練施設やスタッフの充実」が20名、「社会参加の場の充実」が16名、「相談窓口、相談機関の場の充実」が15名、「社会に対する啓発活動」が11名、「将来の生活の場の創設」、「家族会活動」が9名、「特になし」が8名、「在宅生活の支援の充実」が5名、「その他」が1名であった。

重複あり。

発症以前・以後の社会参加(61名)



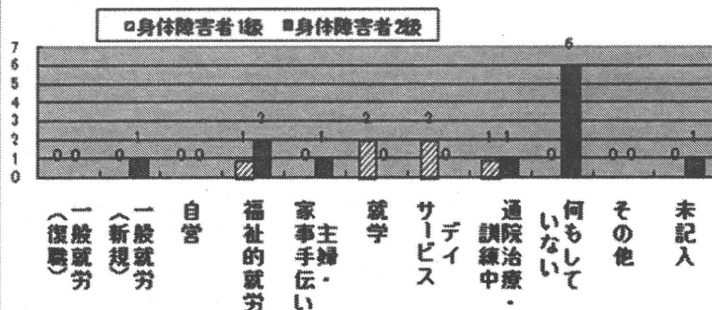
・「発症受傷以前・以後の社会参加」は、発症以前が「就労していた人(34名)」は、現在は「何もしていない」が9名、「就労(復職)」8名が多かった。

発症以前が「自営(3名)」は、現在「就労(新規)」、「主婦・家事手伝い」、「通院治療・訓練中」1名であった。

発症以前が「学生(15名)」は、「福祉的就労」が3名、「就労(新規)」、「就学」、「デイサービス」、「何もしていない」が2名、「復職」、「通院治療・訓練中」、「その他」、「未記入」が1名だった。

発症以前が「家事・手伝い(2名)」は、現在「主婦・家事手伝い」、「通院治療・訓練中」1

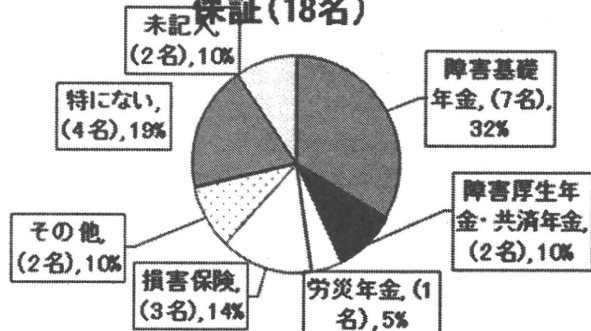
身体障害者の社会参加状況(18名)



・身体障害者手帳1・2級取得者(18名)の社会参加状況は、何もしていないが6名と多かった。

次いで、「福祉的就労」が3名、「就学」、「デイサービス」、「通院治療・訓練中」が2名、「就労(新規)」、「主婦・家事手伝い」、「未記入」が1名だった。

身体障害者の受給している経済的保証(18名)

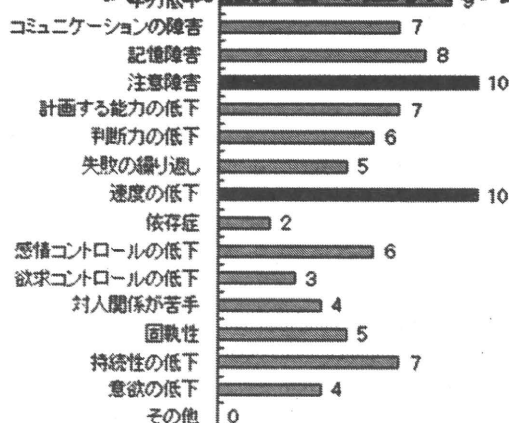


・身体障害者手帳1・2級取得者(18名)の経済的保証は、障害基礎年金が7名と多かった。

次いで、「特になし」が4名、「損害保険」が3名、「障害厚生年金・共済年金」、「その他」、「未記入」が2名、「労災年金」が1名であった。

身体障害者手帳12級取得者の71%が経済的保証の受給があった。

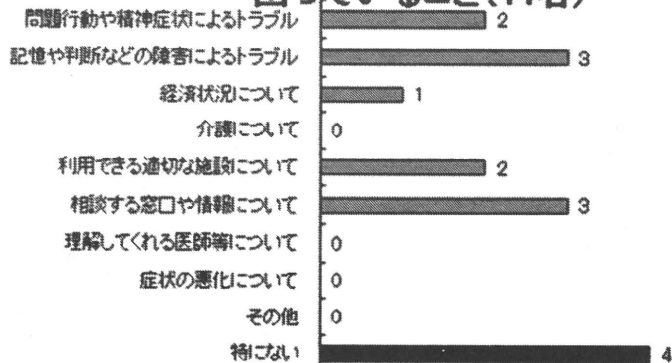
高次機能障害の症状(14名)



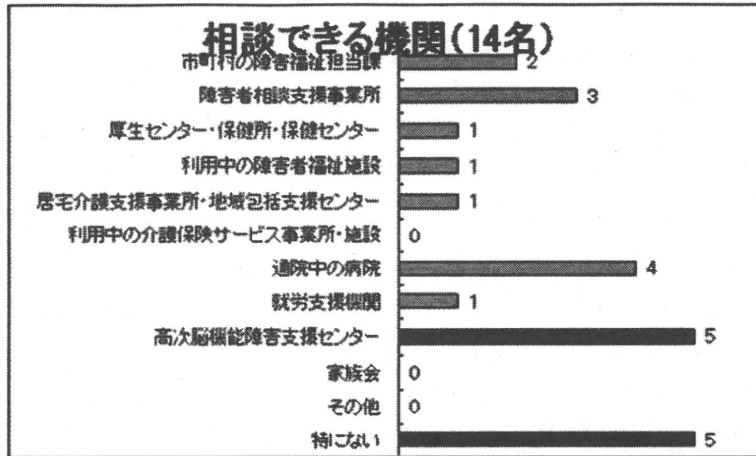
・現在の社会参加状況で「何もしていない」と回答した方(14名)の「高次脳機能障害の症状」は、「注意障害」、「速度の低下」が10名と多かった。

次いで、「学力低下」、「記憶障害」が8~9名であった。「コミュニケーションの低下」、「計画する能力の低下」、「持続力の低下」が7名であった。「判断力の低下」、「感情コントロールの低下」が6名であった。「失敗の繰り返し」、「固執性」が5名であった。「対人関係が苦手」、「意欲の低下」が4名であった。「欲求コントロールの低下」、「依存症」が2~3名であった。

困っていること(14名)

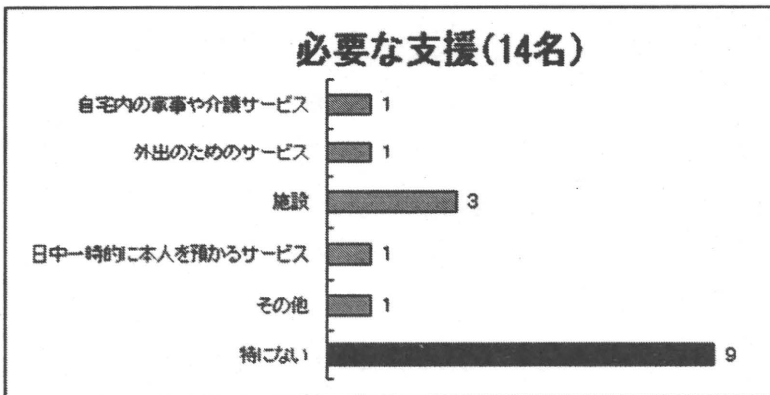


・現在の社会参加状況で「何もしていない」と回答した方(14名)の「現在困っていること」は、「特になし」が4名、「記憶や判断などの障害によるトラブル」、「相談する窓口や情報について」が3名、「問題行動や精神症状によるトラブル」、「利用できる適切な施設について」が2名、「経済状況について」が1名、「介護について」、「理解してくれる医師等について」、「症状の悪化について」、「その他」はなかった。



・現在の社会参加状況で「何もしていない」と回答した方(14名)の生活や社会参加などについて「相談しているまたは必要な時に相談できる機関」は、「高次脳機能障害支援センター」、「特になし」が5名で多かった。

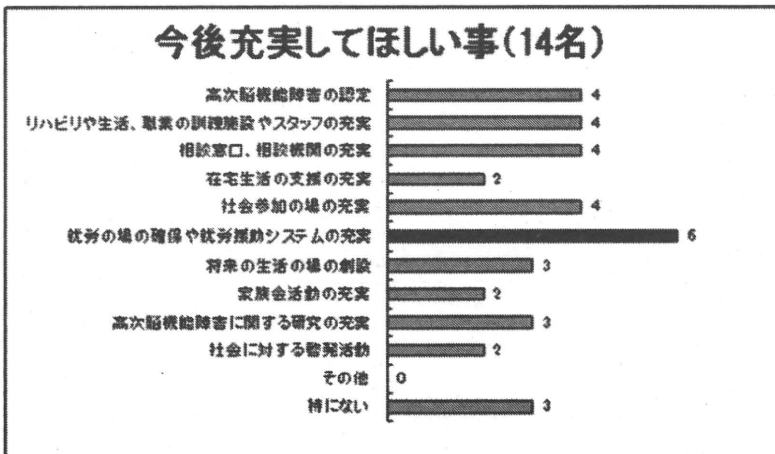
次いで、「通院中の病院」が4名、「障害者相談支援事業所」が3名、「市町村の障害福祉担当課」が2名、「厚生センター・保健所・保健センター」、「利用中の障害福祉施設」、「居宅介護自演事業所・



・現在の社会参加状況で「何もしていない」と回答した方(14名)の日中活動や行動で「必要と思われる支援」は「特になし」が9名と多かった。

次いで、「施設」が3名、「自宅内の家事や介護サービス」、「外出のためのサービス」、「日中一時的に本人を預かるサービス」、「その他」が1名だった。

重複あり。1人あたりの平均、約1項目回答した。



・現在の社会参加状況で「何もしていない」と回答した方(14名)の「今後充実してほしい事」は、「就労の場の確保や就労援助システムの充実」が6名で多かった。

次いで、「高次脳機能障害の認定」、「リハビリや生活、職業の訓練施設やスタッフの充実」、「相談窓口、相談機関の充実」、「社会参加の場の充実」が4名、「将来の生活の場の創設」、「高次脳機能障害に関する研究の充実」、「特になし」が3名、「在宅生活の支援の充実」、